

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

秦 康夫

2016年 11月 20日（日） 9:30～16:00

- 作業項目：1)林床整備（除伐・枯れ枝除去・倒木処理等）
2)森林観察と植樹
3)登山道整備（水切り溝整備）

現在作業中の干害防備保安林内では、許可を得ないと生木に手をつけることはできないので、専ら枯損木の伐木や倒木の整理が主活動となっている。枯木と確認した木には予め目印として白いテープを巻き、伐採の対象としていたが、生物多様性の観点から言えば、枯木は全て伐採するのではなく虫や菌類等の住み家としてある程度は伐採せずに残しておく方がよいので、既に白テープをつけていた保安林内の枯木を、二人がかりで見直すことにし、残すべき枯木は、保存枯木が目印として、改めて青いテープに付け替えた。同時にこの2名で林内植生の確認作業も行った。

他のメンバーは2班に分かれて、枯木の伐木を主とする林床整備を行い、2班合わせて計10本以上処理した。残っているのは太い木ばかりで、ほとんどが直径30cm内外。一番太かったのは41cmだった。ロープ使いにも大分慣れてきたので、予定の方向へ切り倒すという点ではほぼ問題ないが、伐倒後、太い枝を伐り払ったり、また一定の長さに切り揃えて土留めの場所へ移動したり等の後処理には、けっこう手間と労力を要する。

2～3年前から、植生調査兼植栽業の「アドプランツ」に、モミ他数種の幼木の育樹を委託していたが、今日社長の増永さんが、数種類の3～4年生木を届けてくれた。取り敢えずモミを植樹することにし、増永さんに天狗杉

北方尾根上の適地を選んでもらってモミを3本植樹した。植樹にあたっての注意事項。地表のA層（腐葉土）を20~30 cmほど掘下げて取り除き、次のB層を掘ってその土で根をしっかりと植え付けて、腐葉土を表面に被せる。小学生の力程度で軽く踏む等の指示を忠実に守って丁寧に植樹した。植樹地の周辺は、木の柵とビニールシートで四角形に囲い、シカによる食害回避対策を施したが、これで大丈夫だろうか、やや心配である。

今までは間伐や除伐で木を伐ったり枝を払ったり、植生を減らしての森づくりだったが、今回の植樹は、豊かな森を創るとはつきり分かる作業であった。今後の植樹予定木20数本は、物置小屋横にシカ除けの柵をして保存した。

なお、今日は「大阪さともり地域協議会」の小橋さんが活動状況の確認に来られた。これからは、生物多様性を考慮した作業方針と、安全性を重視した作業活動がますます重要になる、と言っておられた。われわれもこの方向で、作業上の注意事項を厳守し、今後とも安全第一に作業を進めたい。

【作業参加者】

猪川誠 石原順子 斧田一陽 久保和恵 黒山泰弘
薦田佳一 武田壽夫 秦康夫 丸山喜代司 宮本廣
武伸明（体験参加） 計 11名



集合写真 作業後



① 本山寺本堂前に摩尼車
ができていた



② 「44ろ」地区で業者が間
伐作業中



③ 伐採しない枯木には青テープ



④ 次回植樹予定木



⑤ 道具を使ってロープをあげる



⑥ 倒す方向へロープを張る



⑦ 枯損木伐採中



⑧ 受け口を伐る



⑨ 追い口を伐り始める



⑩ 伐倒後撥ねた距離は3m程



⑪ 伐採木の後処理



⑫ 太いのは直径41cmあった



⑬ 直径30cm以上が多かった



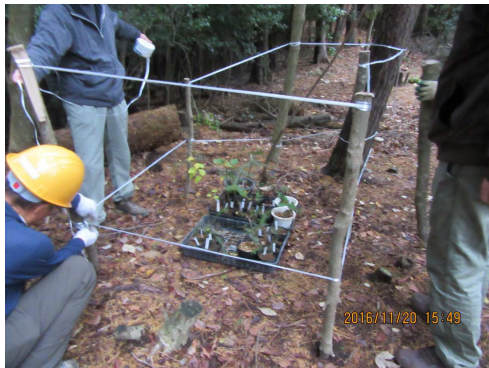
⑭ モミを3本植樹の木



⑮ 鹿除け策



⑯ 今後植樹予定の 20 数本



⑰ 植樹予定木にも鹿除け
対策



⑱ ヒラタケを採取